湖北の医師不足とその対策

問 健康推進課（☎65－7779）

市立長浜病院
院長　神田　雄史

湖北地域の病院医師数の減少が顕著になっています。

―なぜ湖北地域の病院医師が不足しているのか。

医師不足の原因と、病院の人材確保対策の取組について、紹介します。

若い医師・研修医の意志を尊重

20年ほど前までは、大学医学部から教授の指示で、若い医師が地方の病院に赴任していました。最近は医師の希望が尊重され、地方の病院への赴任は敬遠される傾向にあります。

大学での研修医が減少

２００４年から始まった新医師臨床研修制度により、研修医は卒業大学にとらわれることなく、自由に研修する病院を選べるようになりました。その結果、研修医が減少し、大学の医師派遣が機能しなくなりました。人員に余裕のない大学は地方への医師派遣を中止し、地方の勤務医を大学に呼び戻すようになりました。湖北地域では一部の診療科で常勤の専門医が不在となる状況にあります。

人材確保のために

滋賀県では県内の医学生を増やそうと、滋賀医科大学に地域枠を設けています。また、県内に研修医を集めるために、滋賀県病院協会主催で、近隣の大学の医学生と滋賀県出身の医学生に案内を送り、毎年「滋賀県地域医療フォーラム」を開催しています。湖北では湖北医師会主催で、中学生と高校生の医療への関心を高めるため「医師体験ワークショップ」を開催し、将来の人材育成を行っています。

▲医師体験ワークショップの様子

未来を創る子どもたち

学校・園活動紹介④

広げよう！「ありがとう」の輪

きのもと認定こども園の子どもたちは、お友だちや先生など、多くの人に支えられ、見守られて生活しています。

それぞれの場面で「ありがとう」を素直に伝えることで、みんなの気持ちが温かくなります。その気持ちを広げていけるように、園内だけでなく、地域のボランティアの皆さんとの活動を多く取り入れています。

サツマイモの苗植えの際には、ボランティアの皆さんに「苗の葉っぱを、お芋が大好きなお日さまのほうに向けて、土のお布団をしっかりとかけてあげようね」と教えていただきました。ボランティアのおじいちゃんやおばあちゃんのゆったりとした優しさに触れ、子どもたちの方から、自然に「ありがとう」の言葉が出てきました。

様々な人との出会いを通して、子どもたちの中に「ありがとう」の気持ちが育まれ、地域の皆さんから愛され、見守られていることを、子どもたちが肌身で感じてくれるように願っています。

▲サツマイモの苗植えの様子

めざす子ども像

一、夢や目標をもち、それに向かって努力する子
一、思いやりのある心のやさしい子
一、ふるさとを愛し、誇りをもって生きる子

長浜子どものちかい
～わたしたちはちかいます～

一.元気にあいさつをします
一.名前を呼ばれたら「はい」と返事をします
一.「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおに言います
一.困っている人がいたら言葉をかけます
一.人の話をしっかり聞きます

長浜子育て憲章
～おとなが実践します～

一.子どもに誠実に生きる姿を見せます
一.見守るまなざし、叱る勇気を大事にします
一.ルールとマナーを教え、奉仕の心を育みます
一.自然や人々に感謝の心でふれあう子どもを育てます
一.長浜に誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます

市長コラム84

至誠通天

藤井 勇治

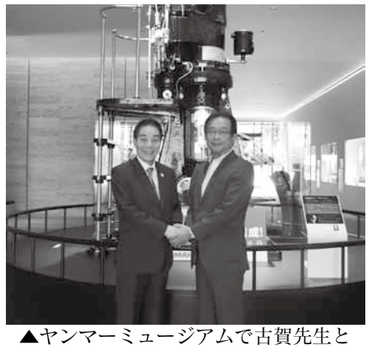
※至誠通天
誠を尽くせば天が味方してくれること

古賀誠先生の有意義な講演会

長浜市福寿大学が主催する講演会が開講され、元自民党幹事長で運輸大臣を務めた古賀誠先生を講師に迎えました。

古賀先生は私の政治家としての師匠であり、長いお付合いとご指導をいただいています。私は中央の国会で古賀先生の政策立案や立法活動を補佐する政策秘書を務めていました。古賀先生は自民党の幹事長や国会対策委員長、道路調査会会長さらに政府の運輸大臣など常に日本の政治を動かす要職に着いて活動されてきました。その「大物政治家」の政策秘書として国の大きな政策決定や政治が動く現場に立ち会ったことは、実に様々な貴重な経験と学びの連続でした。その後、私が衆議院議員や長浜市長として活動できるのも古賀先生から教示いただいた数々のものが大きく活かされています。

古賀先生は、４歳で父親を太平洋戦争で失いました。貧困の中で母親が乾物類の行商や内職を掛け持ちして働き続け、母親の寝ている姿を見たことがないそうです。その思い出が政治家を志す動機となり、「政治は弱者のためのもの」と決意し、38歳で立候補し当選。当時の大平総理大臣から「政治には貧苦が必要だ。貧しさ、苦労を知った者が政治をすべき」と激励され、「貧苦こそ政治を目指す原点」とされています。今回の講演では特に、赤紙一枚によりフィリピン・レイテで戦死した父親や太平洋戦争で尊い命を落とした３００万人もの犠牲者に思いを寄せ、当時の政治家が「日本は負けない」「戦いは続けるべき」としたためで、「政治の貧困がもたらした不幸」と鋭く指摘されました。そして「日本が、戦争の愚かさと平和の尊さを次の世代に残していく責任と自覚を持つことが大切」と語り、迫力と味のある講演で大きな拍手があがりました。



▲ヤンマーミュージアムで古賀先生と

市立病院通信-75-

お元気ですか

このコーナーでは、病院事業のスタッフの紹介を兼ねて、病院施設や体制のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

市立長浜病院
リハビリテーション科
部長 江藤（えとう）　謹司（きんじ）

骨粗しょう症検診について

骨粗しょう症は、知らぬ間に骨がもろくなり、ある日突然、転んだだけで骨折を起こし、日常生活に支障をきたす病気です。

65歳以上の女性では、「骨折・転倒」は要介護状態になる原因の15％を占めています。当院の調査では最近10年間、骨折の中で、特に日常生活に支障をきたす「足の付け根」の骨折で年間１２０人程度が入院し、手術を受けています。そのうち86％の人の骨密度が低下しており、しかもそのうち88％の人が骨折を半分程度防ぐ投薬治療がされていません。

このように、骨粗しょう症に気付かず、適切な治療がされないまま、骨折している人が多いです。

長浜市では、55歳から65歳までの５歳刻みに女性を対象に、エックス線を用いた「デキサ法」という現在最も信頼できる方法で骨密度を測る骨粗しょう症検診を行います。従来は精密検査に用いていた方法で、全国的にも先進的な取り組みです。場所はデキサ法の設備がある市立長浜病院、長浜市立湖北病院、長浜赤十字病院、堤整形外科、さざなみ整形外科、近江診療所の中から選択できます。費用は、１，６００円を負担していただきます。

骨粗しょう症の人は50代の女性で５％ですが、70代では40％まで増加します。検診で早期に発見し、適切な治療で骨折を予防し、自立した生活を送れるようにしましょう。

▲デキサ法のイメージ図

問 市立長浜病院（☎68－2300〈代表〉）